

## 京都府環境審議会 平成29年度第1回地球環境部会議事要旨

1 日時 平成29年9月12日（火）午前10時～正午

2 場所 ホテルルビノ京都堀川 アムールの間

### 3 出席者

#### (1) 審議会委員

浅岡委員、井上委員、奥原委員、汐見委員、中山委員、藤岡委員、松原委員、村上委員、山田委員、渡邊委員

※上記のうち、次の委員は代理出席

奥原委員（代理：中川 京都商工会議所産業振興部次長）

汐見委員（代理：重井 京都府町村会理事）

山田委員（代理：仲北 京都市地球温暖化対策室エネルギー事業推進課長）

#### (2) 事務局

金谷副部長、高屋エネルギー政策課長、松田地球温暖化対策課長、その他関係課員

(3) 傍聴者 なし

(4) 報道関係 2社

### 4 議題

#### (1) 部会長の選出について

委員の互選により渡邊委員が部会長に選出された。

#### (2) 京都府の地球温暖化対策の取組状況について

<意見交換（主な意見）>

- ・過去を見るのも大事だが、これからどうするかが大事。
- ・2020年に25%削減という目標は、目標を立てた当時の議論、2050年に80%削減を達成するためのプロセスとして考えられたものだが、パリ協定ができたことにより、最終的な目標が温室効果ガス「実質ゼロ」にするということに変わった。
- ・25%削減するためにいくら足りないという議論だけでなく、「排出量実質ゼロ」に向けて進めていく必要があり、そのことを府民にも具体的に説明していくことが必要。

#### (3) 京都電気自動車等普及促進計画の改定について

<意見交換（主な意見）>

- ・議論をしている京都府次世代自動車等普及推進協議会のメンバーが、自動車を業として扱う人が幅広く参画していることは、施策の有力な推進母体になると思う。
- ・太陽光に係る設備導入が全国的に伸び悩んでいる。蓄電池とのセットについては、まだまだ蓄電池が高額すぎて難しかったが、EVとのセット導入はよいと思う。

- ・自家発電をEVと合わせるというのは、蓄電池を別途に買わずに、同等の効果が得られる。是非とも早くやって、両方に効果を出してほしい。
- ・目標導入台数の計算について、現行は、自動車の台数分布からの計算で決めているが、車の使い方を大きく変えるということになれば、地域的な分布も見直していく必要があると思う。
- ・府の場合は、地形を考えてEVの有効性などを議論する必要もあるのではないか。

#### (4) その他

##### <意見交換（主な意見）>

- ・大きなパラダイムシフトがないと目標が達成できない。
- ・若者の環境プロジェクトでは、年々意識が低下してきている。このような中で、80%削減が達成できるのかをかなり危惧している。
- ・何千人という若者たちが参加するイベントなどでは、「イベントを目的に来たが、CO<sub>2</sub>削減のためにも頑張るんだ」という方向性などを、ユースサポーターの創設をきっかけに打ち出してほしい。
- ・京都議定書を広めようとしていた時代と、今のパリ協定の時代では、若い人たちの学習の段階でも問題提起の仕方もバージョンアップが必要。
- ・EV化については交通手段が全く変わるということ。それに対応する住まい方や日々の活動の仕方についても、大きな転換点にあることを感じてもらうことが大事。
- ・地球環境に関わることなので、次世代のことを常に考えなければいけない。